



アサヒビール株式会社

経済情報学科
松原 瑠星出身校：
鳥根県立三刀屋高等学校

就職活動を通して最も強く感じたことは、熱意に勝る武器はないということです。自分にはこれといった武器がないことを自覚していたので、とにかく熱意をしっかりと伝えようと思いました。私は食品メーカーを志望していて、選考中には何度もスーパーに足を運びました。受ける企業の商品を探し回り、見つけたものはすべて購入し、味の特徴や競合他社にはない魅力などを徹底的に調べました。また、企業のホームページだけではなく、企業のSNSを確認するなど、受ける企業のことはとことん調べるようにしました。ただ入りたいということ伝えるだけではなく、その熱意を証明するための努力を怠らないことが内定への近道だと思います。

私は20社以上受けても納得のいく内定先がなく、周りが就職活動を終えていく頃には自信を失くし、高みを目指すことを諦めようと思っていました。そんな時期に私を支えたのは一冊のノートでした。
“失敗ノート”

そこには今まで落ちてきた企業と自分なりに考えた敗因が書かれていました。汗と涙でクシャクシャになったそのノートを見返したとき、これから何があっても決して折れないと決めました。就職活動は、何回負けても第一志望の選考で一回だけ勝てば成功だといえると思います。選考に落ちる度にその理由を分析しておく、次の選考ではより洗練された自分がいるはず。内定を勝ち取ったとき、今までの失敗を誇らしく思えるように、自分の限界に挑戦してみてください。



大阪役所

経済情報学科
吉田 匡希出身校：
兵庫県立西脇高等学校

私は、大学3年生の10月頃から公務員試験の対策を始めました。公務員試験の対策で重要なことは、繰り返し練習することだと思います。私は、独学で取り組んでいた、十分な時間や場所を確保することが大切だと思い、翠明館の自習室などを利用していました。それに加え、毎日のニュース、電子版新聞を見ることは欠かしませんでした。情報、知識をより多く持つことで、確実に他の学生と差別化できると実感しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、公務員試験の日程も大きく影響を受けました。試験日から逆算して対策をしてきたのも、先の見えない延期となり、モチベーションの維持がとても大変でした。そのような時に、身近にいる友達などと連絡を取り合い、情報を交換するなど、1人で抱え込まないことが大切だと感じました。試験が延期したことを良い機会に、面接練習の時間を多く取ることもできました。

また、試験対策に焦り、睡眠時間の減少や、ストレスを多く抱えるなどといった、体調管理ができなくなると、必ず合否へ影響します。日頃から趣味などの時間をしっかりと作り、勉強と余暇のメリハリをつけることがとても重要だと感じています。

みなさんが就職活動を悔いなく終えられるよう、応援しています。



愛媛県立公立中学校

日本文学科
太古 早紀出身校：
愛媛県立松山北高等学校

教員を志して取り組んできた4年間を経て、今感じていることは、強い意志をもつことの大切さです。教職課程では、模擬授業などの実践的な活動も行います。自分が先生側になって授業を行うことは、想像以上に難しく、ネガティブな気持ちになることも多くありました。それでも4年間頑張れたのは、「教師になりたい」という確固たる思いがあったからです。これは、教員採用試験にも言えることです。教員採用試験は、教育学部をはじめとした専門的に教育について学んできた人と同じ土俵で戦わなければなりません。劣等感や焦り、不安、様々な感情でつらく思うことも多々ありました。しかし、意志を強くもつことで自分を奮い立たせ、日々の努力を積み重ね、乗り越えることができました。そして今、自分の意志が自分を支えてくれることを実感しています。

就職活動には様々な困難があると思います。それに加えて、現在はコロナ禍の影響も広がっています。自分を支えるのは強い意志だと言いましたが、イレギュラーな状況の中、自分一人で頑張り続けることはとても難しいことです。つらくなったら、ぜひ、家族や友人、先生方など周りの人と話してください。私も友人と話すことで救われることが多くありました。

就職活動を通じて得た経験は、きっと自分を成長させます。正解がない中で、自分の最適解と言える選択ができるよう、応援しています。



(株)RCCフロンティア

美術学科
穴吹 花恋出身校：
香川県立高松工芸高等学校

就職活動を振り返り、もっとも自身の武器になったのは、これまで制作してきた作品たちとポートフォリオです。

私が本格的にポートフォリオの制作をはじめたのは、3年生の秋頃でした。ポートフォリオ制作で大切なことは、まずは一冊、形にしてみる。そして、できるだけたくさんの人に見て頂いて、意見をもらうことです。私は、教授や友人はもちろん、説明会やインターンに参加した際、お時間を頂ければ社員の方々に積極的に見て頂くようにしていました。どういったところを注目して見てくださるのか、これからの修正点も含め、毎回新しい気付きがありました。

少しずつ修正を重ね、内定を頂いた企業を受験する際には、自分でも納得できるクオリティのものを提出できました。時間に追われてとりあえずまとめたものではなく、ポートフォリオもひとつの作品だと思って楽しみながら制作するとういと思います。

また、日々の課題だけでなく、精力的に自主制作や学外での活動をしていると就職活動においてすごくプラスになると思います。ポートフォリオに作品の厚みがでることはもちろん、面接でも興味を持って深掘りして聞いてくださると思います。

就職活動中は思うように行かず、もどかしいこともたくさんありました。しかし、最後は熱意だったのだと実感しています。その企業に入りたいという熱い気持ちを、ポートフォリオや面接で精一杯伝えられるよう、頑張ってください。応援しています。